

ひと
まち

川越の古き良き文化



新河岸自治会館では、茶の前に笛・琵琶・琴などの演奏が行われ、心もリラックス



喜多院では、高校生が茶を点てました。茶道部に入った理由を尋ねると、「日本の文化を学びたかったから」



大盛況の本丸御殿では、茶室の外まで席が設けられました



河越氏ゆかりの河越館跡では、甲冑姿でお手前



蓮馨寺では、いすに座る立礼。「ひざに負担がかからないので、これからは人気が出るでしょうね」と席主

川越に茶の文化を復活させようと、5月29日、市内で初めて大規模な茶会が開催されました。その名も「茶あそび彩茶会」。当日は、台風接近による大雨にもかかわらず、市内に十か所以上設けられた茶席には、大勢の方が訪れました。

川越と茶のかかわりは古く、南北朝時代の書物『異制庭訓往来』には、最上とされる京都梅尾に次ぐ全国銘茶五湯の一つとして「武蔵河越」が挙げられています。当時、茶をたしなむことができたのは武士や僧侶などに限られたことから、河越茶の成立と振興には河越氏が深くかかわっていたものと考えられます。平安時代末期から南北朝時代にかけて有力な武士であった河越氏。会場の一つとなった河越館跡は同氏の居館で、天目茶碗・茶臼などの茶道具が出土しています。

各会場では、催しの名のとおり、遊び心を取り入れたさまざまな趣向で茶が点てられました。茶会というと、格式の高い印象。でも、まずは気軽に茶の文化に触れることができるよう、流派を越えて多くの茶席が用意されました。「彩茶会をきっかけに、川越にお茶文化が復活するといいですね」と、同実行委員会副委員長・寺田勝廣さん(67歳・石田)。

歴史女トークショー

彩茶会の最後は、茶陶苑(仲町)での歴史好き女性二人による対談。「このイベントで、川越とお茶のつながりを初めて知りました。もっとPRをして、多くの人に川越の魅力を知って欲しいです」と美甘子さん。「最近、茶の湯は女性のたしなみというイメージですが、本来は戦国武将のものだったはず。お茶の心くばりとおもてなしの心は、ビジネスにも活かせるのでは」と龍神由美さん。



小江戸川越観光親善大使・龍神さん



歴史アイドル・美甘子さん

被災地へ届け



サッカー教室には、元日本代表選手・金田喜稔さんらが参加

東日本大震災の被災地に、スポーツを通して夢と希望と勇気を届けようと、

6月12日「震災復興支援チャリティサッカー」が国連支援交流協会主催で行われました。会場の尚美学園大学では、キックオフに先立ち、全員で黙とう。その後、往年の名選手と若手芸人の試合や、サッカー教室を開催。参加した市内サッカーチーム主将・大野泰雅くん(小学6年生)は、「ついこの間に一緒に試合をしたチームが震災で被害を受けたことを知ってショックだった。また一緒にサッカーができるようになって欲しいです」。義援金箱を持つ選手たちの前には、子どもたちの長い列ができました。



小さいうちから大切に



6月5日、総合保健センターで「歯ッピーフェスティバル」が行われ、歯の健康を守るさまざまなコーナーが開設されました。

子どもの歯磨き指導では、ぬいぐるみを使って歯の磨き方を練習。磨き方をほめてもらい、うれしそうな子どももいました。参加した親からは「子どもと一緒に歯について学ぶことができた。歯について感心を持つ良いきっかけになりました」。成人歯科コーナーでは、口の中の細菌や口臭チェックが行われ「自分の歯でいつまでも過ごしたいので参加しました。普段あまり気づかない口の中の状態が分かって良かったです」との声が聞かれました。



一番人気のフッ素塗布。スポンジを回した子どもたちは「変な感じ〜」

ひとまち ふおとニュース

東洋大学2連覇！



選手たちからサインバットやボールが贈られ、市からは感謝状が渡されました

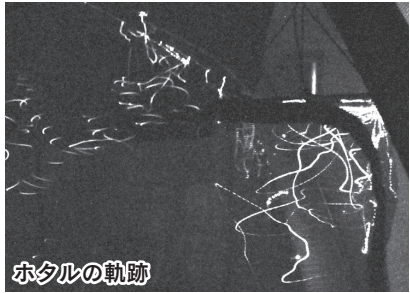
全日本大学野球選手権で優勝した東洋大学。延長10回、3-1でサヨナラ勝ち。史上5校目となる2連覇を果たしました。

決勝戦について「慶應義塾大学は粘り強いチーム。あと1つ勝てば2連覇という強い気持ちで勝つことができました」と内野手の鈴木大地主将。投手の藤岡貴裕副主将は、「チーム一丸となって戦ったことで優勝につながりました。秋の大会も優勝を目指して頑張ります」。



サヨナラ2ランを打った小田選手を迎える選手たち(写真提供：東洋大学)

光のショー



ホタルの軌跡

6月18日、北公民館で行われた「ほたる観賞会」。部屋の中に蚊帳がつるされ、約200匹のヘイケボタルが放されました。

このホタルは、川越ほたる里親の会の会員が自宅で10か月かけて飼育したもの。当日は観賞会のほかに、飼育方法や成長過程なども紹介されました。「たくさんの光がとてもきれいだった。ホタルが育つようなきれいな川が近くにあっていいな」と笠井大暉くん(月吉町・小学4年生)。同会代表・水口博之さん(宮元町・59歳)は、「川越で天然のホタルを飛ばすのが夢」。



容器の中の生きた幼虫を観察